

平成 23 年度 札幌市研究開発事業「小中連携」に係る実践研究

1. 研究の内容・方法

研究推進校として、小学校 2 校と中学校 1 校を指定するとともに、併せて、上記の委員構成による「札幌市小中連携に係る実践研究推進委員会」を設置し、学習指導や教職員研修及び地域との連携など、「小中連携」についての実践的研究を行う。

2. 委員構成

委員 長	札幌市立宮の森中学校	校 長	谷 直	人
委 員	札幌市立三角山小学校	校 長	秋 山	人
	札幌市立大倉山小学校	校 長	今 澤	子
	札幌市立宮の森中学校	教 諭	今 井	貴
	札幌市立三角山小学校	教 諭	田 中	人
	札幌市立大倉山小学校	教 諭	関 根	彦
事 務 局	札幌市教育委員会	指導主事	山 田	健
	札幌市教育委員会	指導主事	小 林	直

3. 平成 23 年度の主な実践内容

(1) 研究推進会議

日 時	平成 23 年 7 月 4 日 (月)	16:00 ~ 16:55
場 所	札幌市教育委員会 (4 階)	
内 容	事業概要について ・ 研究の進め方 ・ 研究計画と実践交流 ・ 予算について	

(2) 小中連携打ち合わせ会

日 時	平成 23 年 7 月 19 日 (火)	16:00 ~ 16:55
場 所	札幌市立宮の森中学校 会議室 (2 階)	
内 容	小中連携の取組について ・ 夏休み明けの英語科の授業について ・ 2 学期以降の小中連携の取組について ・ 情報交流 ・ その他	
参加者	6 年生担任、教務、英語科教諭、中学校教頭	

(3) 小学生の英語授業体験

日 時	平成 23 年 8 月 23 日 (火)	10:15 ~ 11:00	三角山小学校
	平成 23 年 8 月 24 日 (水)	9:05 ~ 9:50	大倉山小学校
場 所	札幌市立宮の森中学校 1 階	1 年 1 組・3 組	教室
授業内容	プログラム Program 2 - 1		
参加者	三角山小学校 6 年 1 組: 23 名、2 組: 26 名 大倉山小学校 6 年 1 組: 31 名、2 組: 30 名		



(4) 小中連携(教務担当)打ち合わせ会

日時 平成23年8月24日(水) 14:00~15:00
場所 札幌市立宮の森中学校 会議室 (2階)
内容 ・児童生徒に身に付けさせたい力
生活面のルール 時間のけじめ 給食の手順
言語活動 生徒の呼び方
アンケート 生活実態アンケート
学力面 伸ばすべきポイント
・旅行宿泊で行事の場所と主な取組
・総合的な学習等での体験等
・2学期以降の小中連携の取組について
参加者 各校教務担当者

(5) 研究推進会議(ワーキング会議)

日時 平成23年9月27日(火) 15:30~
場所 札幌市立宮の森中学校 会議室 (2階)
内容 アンケートの内容 今後の取組

(6) 小学校の公開授業の参観

日時 平成10月1日(土) 三角山小学校
場所 札幌市立三角山小学校
内容 学校公開日

日時 平成10月2日(日) 大倉山小学校
場所 札幌市立大倉山小学校
内容 地域学校公開

日時 平成11月11日(金) 大倉山小学校
場所 札幌市立大倉山小学校
内容 第9回教育実践発表会

日時 平成12月2日(金) 三角山小学校
場所 札幌市立三角山小学校
内容 第10回三角山の教育発表会

(7) 学校公開日及 地域・新1年生保護者への説明公開

日時 平成23年11月7日(月) 14:00~16:00
場所 札幌市立宮の森中学校
内容 授業公開
地域・新1年生保護者への説明公開

(8) アンケートの実施・集計

日時 平成23年12月
実施学年 小学校 5年生 6年生 (三角山小学校・大倉山小学校)
中学校 1年生 (宮の森中学校)

(9) 英語の授業交流

日時 平成24年1月16日(月) 11:00 ~ 12:50
場所 札幌市立宮の森中学校 視聴覚室
授業内容

1年1組 英語科
1年2組 国語科
1年3組 美術科
2年1組 数学科
2年2組 英語科
2年3組 社会科
5組 学活

交流会

- ・学校長挨拶
- ・英語の授業についての交流(授業者から、感想、質問)
- ・各小学校からの外国語活動に関する報告



・助言：北海道教育大学 教授 萬谷 隆一

参加者 中学校授業者 大倉山小学校・三角山小学校・盤溪小学校 教諭

主な感想

- ・中学校の英語が文法の教え込み（片寄った見方かも知れませんが...）から、使える英語、話せる英語に変わったと思う。子どもたちが楽しく身体を動かしながら英語に触れ、自然に身に付くようにしていると感じられた。（ゲーム形式をグループ毎に何度も回数を重ねることで）
- ・今日の英語の授業を見て、ゲームをしたり授業中の楽しい雰囲気などは、小学校と共通した感じがしましたが、文法などが入ってくるというのが大きな違いだと感じた。また、定着というところと書くというところも大きな違いであると思った。
- ・1, 2年共にグループで進めて、友達とのやりとりの中で会話（使える英語）ができるようになっていくのかと思った。
- ・授業の構成がとてもわかりやすく、学んだことが定着するように会話やゲーム、英文など形式を変えて何度もくり返すところがとても良いと思う。ゲームの部分は小学校での取組と似ているので、きっと子どもたちはすんなりと入っていけるのではないかなと思う。
- ・初めて中学校での英語を参観した。自分の時代（すごく昔）と比べて、とても楽しく授業が構成されていると思った。TVの映像やゲームなど、子どもの集中が続くように、まさしくアクティビティーに進行している印象であった。子どもたちの発音も良く、ALTやTTの効果がすごく出ていると思う。
- ・五十嵐先生がおっしゃっていたが、小学校での外国語活動が始まり、中学校に上がったときの「英語に対する抵抗感が少ない」と、私自身も思った。

(10) 小学校訪問（中学1年生 総合的な学習の時間）

日時 平成24年2月8日（水） 14:00～15:10

場所 札幌市立大倉山小学校

札幌市立三角山小学校

内容 6年生を対象に、宮の森中学校の様子を紹介する

流れ

- ・はじめのことば
- ・宮中の生活（宮中の一日）
- ・宮中の1年（行事等）
- ・宮中の学習と生徒会活動
- ・部活動紹介
- ・合唱
- ・小学校から
- ・おわりのことば



(11) 入学説明会

日時 平成24年2月14日（火） 14:30～15:30

場所 札幌市立宮の森中学校 視聴覚室

内容

- ・本校の概要
- ・入学準備日程
- ・中学校の学習・生活
- ・部活動
- ・学校徴収金
- ・ネットトラブル

対象 新1年生保護者

(12) 研究推進会議（ワーキング会議）

日時 平成24年2月15日（水） 15:30～

場所 札幌市立宮の森中学校 会議室（2階）

内容

- アンケートの結果から
- 実践研究のまとめ
- 次年度継続する事柄について

(13) 新入生の引継

日時・場所 平成24年3月21日（水） 札幌市立大倉山小学校

平成24年3月21日（水） 札幌市立三角山小学校

(14) 札幌市研究開発事業「小中連携」に係る実践研究 研究推進会議（まとめ）

日時 平成24年3月21日(水) 16:00 ~
場所 札幌市教育委員会 4階 委員会会議室
内容 ・各中学校からの発表(取組の内容、成果と課題について)
・実践研究のまとめ
・研究推進委員長から

4. 平成23年度 その他の連携内容

- (1) 防災フェスティバル
- (2) スクールカウンセラーを通じた連携
小中で同じカウンセラーを配置してもらうことにより、大きなメリットがある。
- (3) チューブ滑り大会 コース作り
- (4) 少年野球との交流試合
- (5) 雪かきボランティア
- (6) 宮の森中学校ガイドブック(10月小学校に配布)
昨年から、早い段階で配布することにより、大変好評であった。
- (7) 理科授業交流 粒子概念 中1「状態変化」 中3「イオン」
- (8) 中学校 文化祭の公開

5. アンケートの結果から

- (1) アンケートの対象
三角山小学校 大倉山小学校 宮の森中学校
小学校5年生 124名 小学校6年生 108名 中学1年生 95名
- (2) アンケート項目

適合度

「そう思う」「大体そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」

- 1 家の人と学校での出来事について話をしていますか
- 2 今住んでいる地域の行事に参加していますか
- 3 中学校の文化祭など(中学生は小学校)の行事に積極的に参加していますか
- 4 授業で自分の考えを話すことが好きですか
- 5 授業では、ノートを丁寧に書いていますか
- 6 授業では、学級の友達と話し合う活動に対し、進んで取り組んでいますか
- 7 授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか
- 8 相手が何を伝えたいのかを考えながら聞くようにしていますか
- 9 自分の思いや考えとは違う意見の人に対して、どこが違うのかを理解し、相手の考えも認めることができますか
- 10 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか

(2) 各項目の結果から

- 質問1 家の人と学校での出来事について話をしていますか
平成22年度全国学力・学習状況調査の結果と比較すると、「そう思う」「大体そう思う」の合計が10ポイント以上高く、保護者と児童生徒の関わりが深く、学校の状況を理解している家庭が多いと考えられる。
- 質問2 今住んでいる地域の行事に参加していますか
小学校では「そう思う」「大体そう思う」の合計が6割程度であるが、中学校になると4割を割るようになる。地域行事への参加が減少している。
- 質問3 中学校の文化祭など(中学生は小学校)の行事に積極的に参加していますか
中学生が、小学校の行事によく参加しているように読み取れる。小学校の公開授業や運動会などで中学生の姿を見かけるが、中学校の文化祭と勘違いして解答している可能性もある。
- 質問4 授業で自分の考えを話すことが好きですか
中学生になると、話す活動を好まなくなる。
- 質問6 授業では、学級の友達と話し合う活動に対し、進んで取り組んでいますか
- 質問8 相手が何を伝えたいのかを考えながら聞くようにしていますか
- 質問9 自分の思いや考えとは違う意見の人に対して、どこが違うのかを理解し、相手の考

えも認めることができますか

「そう思う」「大体そう思う」の合計が8割程度有り授業に対する姿勢が意欲的であると理解している。質問4から、好きでなくなるが、前向きに取り組もうと努力している様子が伺える。

質問7 授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか

平成22年度全国学力・学習状況調査の中では、国語・数学・総合について聞いているがどれと比較しても「そう思う」「大体そう思う」の割合がやや高い。

質問5 授業では、ノートを丁寧に書いていますか

学年が進むにつれてノートを丁寧に書いていていると思っている。しかし、平成22年度全国学力・学習状況調査の中では「そう思う」「大体そう思う」の割合が全国平均で86.1%、今回の調査の79.8より高い。学年が上がると全国平均より高くなるかどうかは不明である。

質問10 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか

「そう思う」だけで8割程度ある。平成19年度小学校調査質問、平成22年度全国学力・学習状況調査と比較してもかなり高い値である。

6. 「小中連携」に係る実践研究の成果と今後の方向性

(1) 継続可能な連携をめざして

小中連携の原点は互いのよさを尊重し理解することにある。また、小学校での外国語活動が本格化し、英語を切り口とした連携が4年前に開始された。その柱となるのが「英語授業体験」と「英語授業交流」である。それぞれの校種で行われている教育活動の日程を調整して、新しい活動を実施するのは大変難しい。そこで、目をつけたのが、小学校・中学校における長期休業日程のずれである。

中学校の夏休みが小学校より長く、小学校が先に2学期がはじまるという日程のずれを利用して、中学校で小学生対象の「英語授業体験」を2日間、小学校ごとに実施することとした。また、「英語授業交流」では中学校の冬休みが短く、先にはじまった3学期の授業の様子を、まだ冬休みで時間にゆとりのある小学校の先生に見ていただくことができるように設定した。

また、この2つの取組を実施する前後に、教務担当者や6年生の担任が打ち合わせや反省会をもち、運営の方法等を確認すると同時に、各学校で行われている教育活動についても交流するようにした。

(2) 英語授業体験

中学校の夏休み中に行う小学校6年生を対象とした「英語授業体験」の事前アンケートでは、「勉強について行けるか」「怖い先輩はいないか」「きちんと生活できるか」といった不安な気持ちを書いている児童が多かった。しかし、授業後は「中学校の先生に名前を呼んでもらった(英語の会話として)」「中学校に知っている先生ができて安心した」「英語が書けるようになりたい」「なんとかついて行けそうだ」など、中学校生活に対する漠然とした不安が、具体的な努力目標へと変化した。また、吹奏楽部の生徒による歓迎の演奏や、バレーボール部でのサーブ体験、サッカー部・野球部・バスケットボール部・テニス部などを見学し、「中学1年生は小学校時代と変わってきびきび行動していた」など、1年後の姿を思い浮かべることができる生徒が増えた。

(3) 英語授業交流

小学校の冬休みを利用して小学校の先生に中学校の授業を見ていただく「英語授業交流」では、毎年40名ほどの参加をいただき、各校の実践を交流している。また、昨年度に引き続き、英語以外の授業も公開し、多くの教科において双方向の交流に発展するようになった。

中学校 英語担当から

たくさんの貴重な感想、ご意見をいただいた。これからの宮の森中学校での英語の授業にしっかりと活かしていきたいと思う。

中学校の英語学習について多くの方が小学校での外国語活動との違いにふれて、双方のつながりを指向するものであった。中学校での四技能の定着、とりわけ書くことと会話のやりとりを深める具体的な学習活動について着目していただくことができた。

この事業は4年目の取組になるが、回を重ねる毎に充実した内容になっていると思う。

「小中連携は大切。この活動を継続させてほしい。中学校の先生方も小学校の活動を観て参考にして欲しい。」とのアドバイスをいただいた。そして、中学校の学習活動ではそれぞれの技能が定着するための工夫があり、表現する内容も広がり、さらに音声から文字を通しての理解も必要になってくるなどのバージョンアップがある。そこで、小学校では、「中学校では大人の英語になる、ますます楽しくなるよ！」と初回から関わってもらっている。北海道教育大学札幌校の萬谷隆一教授（同小学校英語プロジェクト代表、小学校英語支援コミュニティサイト（CELENET）代表）からも励ましてほしいとのコメントをいただいた。

（４）アンケートから

アンケートの結果を見ると、学習に対して前向きに取り組み、良好な友達関係を構築して、成就感を得た学校生活を送っていると感じていることがわかる。また、家庭でのコミュニケーションも充実しており、学校生活を支援していることが伺える。さらに、学年が進むほど授業に対して真剣に取り組み、より良くありたいと願っている様子が、「授業では、ノートを丁寧に書いていますか」の上昇に繋がるのではないと思われる。

「授業では、学級の友達と話し合う活動に対し、進んで取り組んでいますか」「相手が何を伝えたいのかを考えながら聞くようにしていますか」「自分の思いや考えとは違う意見の人に対して、どこが違うのかを理解し、相手の考えも認めることができますか」は、高い値を示しているが、「授業で自分の考えを話すことが好きですか」は、下降しており、上記の３項目の下降に繋がるサインである可能性がある。中学生になると生活や学習の環境が大きく変化し、もっている能力を十分に発揮できない、いわゆる「中１ギャップ」を生み出さないために、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかった」という経験や、「ノートを丁寧に書こう」とする努力をとらえ、適切な目標に向けて成長を促す場面「中１ステップ」を実現させる着眼点としたい。

（５）学習状況やルールについて

中学校での学習状況を紹介し、授業改善に活用していただいている。また、給食のルールやマナーについて、小学校では、同じ給食を食べている親学校と子学校という関係もあり、統一が図られた。中学校でも、それらのルールを尊重しながら検討を進めている。

旅行的行事や総合的な学習の時間等についても交流が行われている。

（６）小学校訪問（中学１年生 総合的な学習の時間）

小中連携事業であるから、もちろん教師の連携のことであるが、児童・生徒が連携することにより、具体的な目標として「中１ステップ」を実現させていると感じている。宮の森中学校で１０か月間生活した経験をもとに、先輩として小学校６年生に中学校の様子を説明をする小学校訪問は、中学生にとっても小学生にとっても意義の大きい取組となっている。

（７）今後の方向性

小学校での授業を参観させていただく機会も増え、小学校の学習内容を意識した中学校での授業が各教科で行われるようになってきている。小学校では様々な学習形態を活用しながら授業が展開されており、中学校で取り組んでいるユニット学習にも関連性が深いと思われる。言語活動の一層の充実を図っていきたい。

学校行事や総合的な学習の時間等、地域の同じ施設（動物園・円山陸上競技場）を活用している場面があり、共通した指導を進めることができそうである。また、同じ新聞記事を活用しての道徳授業や、小中の発達段階を考慮した教科指導など、英語以外にも広げていきたい。

学年が進むごとに地域とのかかわりが薄れているが、行事に参加する立場から、行事を企画したり、地域のために取り組めること、例えば、雪かきのボランティアなど発達段階に合わせた企画が今後とも必要である。

「小中連携」の取り組みの柱が継続的に実践できる体制が構築できた。回を重ねるごとに運営もスムーズになり、接続が進んでいる。今後も校種の違いを認め合い、よりよい関係づくりを継続していくことが望ましいと考えている。